

報告書〔4〕 分析結果及びフローシート

4 カドミウム

分析実施機関名	整理番号	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (JAL 25) 4. なし
分析主担当者名	*	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(検体数)
				検体

注1) 分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)

注1) 2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。

分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

< フルム原子吸光法 >

試料の適量
 ↓
 前処理(酸による分解)
 ↓
 一定容量とする(試験溶液)
 ↓
 分液ロートへ
 くえん酸水素二アモニウム溶液(100g/l)10ml
 メタリン酸ナトリウム溶液(1g/l)2,3滴
 アンモニア水
 わずかに紫色となるまで
 シェーリングトールミン酸ナトリウム溶液(10g/l)5ml
 酢酸アセチル1回目10ml、2回目5ml
 ↓
 抽出(2回抽出)
 ↓
 酢酸アセチル層
 ↓
 加熱 酢酸アセチルが揮散するまで
 硝酸2ml
 ↓
 加熱 過塩素酸2ml
 ほとんど乾固するまで
 硝酸
 ↓
 一定容量 (A)
 ↓
 定量 (C)(W)

< 電気加熱原子吸光法 >

試料の適量
 ↓
 前処理 フルム原子吸光法と同じ
 ↓
 一定容量とする (試験溶液) (A)
 ↓
 分取(注入量)
 硝酸ハランウム溶液
 ↓
 定量 (B)~(E) (W)

< ICP発光分析法 >

< ICP質量分析法 >

試料の適量
 ↓
 前処理 フルム原子吸光法と同じ
 ↓
 一定容量とする(試験溶液)
 ↓
 定量 (F)~(J) (K)~(M) (V)

< 分析法等 >

分析法	1. フルム原子吸光法 2. 電気加熱原子吸光法 3. ICP発光分析法 4. ICP質量分析法 5. その他()
測定波長(又は質量数)	()nm 又は質量数()
試料の分取量	()ml
前処理の方法	1. 塩酸酸性で煮沸 2. 硝酸酸性で煮沸 3. 塩酸による分解 4. 硝酸による分解 5. 塩酸と硝酸による分解 6. 硝酸と過塩素酸による分解 7. 硝酸と硫酸による分解 8. 前処理を行わない
前処理後の定容量	()ml
溶媒抽出	1. 実施する 2. 実施しない
分取量	()ml
溶媒の種類 抽出回数 溶媒の使用量	1. 酢酸アセチル 2. キルソ 3. その他() ()回 ()ml/回
最終の定容量	()ml
最終溶液の液性	(A) 1. 硝酸酸性 2. 塩酸酸性 3. 有機溶媒

< 原子吸光法 >

注入量 電気加熱炉	(B) ()μl
バックグラウンド補正	(C) 1. しない 2. 重水素ランプ 2. 偏光セルマン 4. その他()
原子化の方法 電気加熱炉	(D) 1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他()
モスファイアの添加	(E) 1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加 添加元素等()

< ICP発光分析法 >

装置の型式	(F) 1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ)
バックグラウンド補正	(G) 1. 行う 2. 行わない
超音波ネブライザの使用	(H)(A) 1. 使用しない 2. 使用する
同時測定元素	(I) 1. なし 2. あり(元素記号)()
測定時間	(J) ()秒/元素

< ICP質量分析法 >

希釈水の純度	(K) 1. 蒸留 2. イオン交換水 3. その他()
同時測定元素	(L) 1. なし 2. あり(元素記号)()
チューニングに用いた元素	(M) 1. Li, Y, Ti 2. Li, Co, Y 3. Co, Y, La 4. Be, Y, Tl 又は Bi 5. Y, La, Tl 又は Bi 6. その他()

< 検量線の作成等 >

定量方法	(N) 1. 検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 3. の場合の内標準物質 (O) 1. イットリウム 2. インジウム 3. ビスマス 4. その他()
検量線の作成	作成点数 (P) () 濃度範囲 (Q) () ~ (R) () 注2) 単位 (S) 1. 量(μg) 2. 濃度(mg/l) 最高濃度の指示値 (T) () 空試験値(指示値) (U) ()
試料の指示値	(V) ()

注2) 測定溶液中の量又は濃度で示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点

前処理について	-----
測定方法について	-----
分析全般について	-----